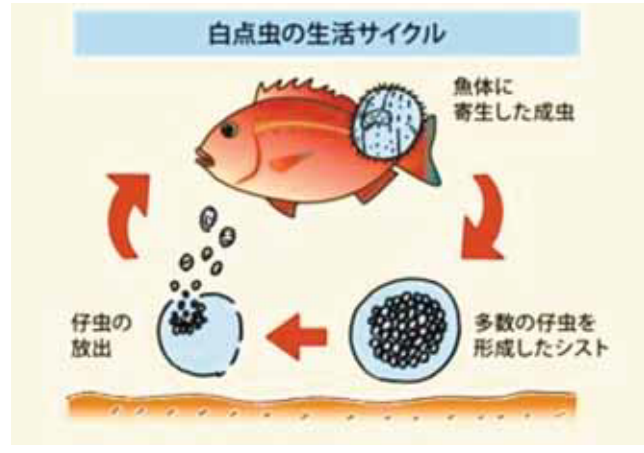


養マダイなど白点病対策に

宇部マテリアルズ「カルサンマリン」



白点虫の生活サイクルイメージ（同社の商品カタログから）

【山口】無機材料メーカーの宇部マテリアルズ（山口県宇部市、西田宏社長）は、養殖漁場の白点病（ホワイトスポット）などの魚病に対し、「カルサンマリン」の利用をPRする。同商品はカルシウム化合物のアルカリ性剤で、マダイやトラフグなどの海面養殖漁場で白点病の事前対策や、同病発生時の緊急対処として利用されている。

白点病の原因となる白点虫は、魚体に寄生し成長する。成虫になると魚体から離れ、海底に沈み



「シスト」と呼ばれる多数の仔虫を形成。シストから約24時間で仔虫が放出され海中へ広がっていくことで再び魚体に寄生、このサイクルが繰り返されてしまう。カルサンマリンは、底泥中のpH（水素イオン指数）を急激に上昇させることで、シストを死滅させる役割

「カルサンマリン」は、アーモンド状大ペレット型で、大きさは長径22〜25ミリほど

を担う。加えて、底質からの硫化水素の発生を抑制するなど底質改善にも役立つ。

◇カルサンマリンの唯一性

海面養殖漁場での石灰製品の散布は由来から行われており、白点虫のpHコントロールによる防除は周知されてきた。カルサンマリンは、海面に投入してから海底に到達するまで約1〜2分間は粒型を維持。それによって、海底周辺のpHを速やかにアルカリ性に変化させる効用があるのが最大の特長だ。例年、8月中旬から秋口にかけて散布することで「利用者からは白点病の被害は出な

かった」（販売担当者）と重宝されているという。実際に、白点病による魚のへい死が確認された場合は、散布して被害を止めていく。利用者にとっては作業負担が軽いのも好評で、2000年から20年間です累計2000ト以上を九州、四国の養殖漁場へ販売した。

同社では、同県美祿市で採れる石灰石を原料として、カルシア関連製品を製造している。養殖漁場での日ごころからの底質環境の改善を目的とした「クリアウォーター」を主軸に商品を展開。同社マグネシア関連事業部営業企画部の三浦友規子さんは「普段から魚病が発生しない環境づくりを心がけてほしい。もし発生すれば早めの対策が重要」と注意を呼び掛ける。

▼問合せ先 宇部マテリアルズ(株)マグネシア関連事業部営業企画部（☎083363116005）